

としょかんNEWS 第113号



2016年8月22日
湘北短期大学図書館

図書館+オリンピック企画!

● オリンピック競技のマスコットキャラクターをデザインしよう

いよいよオリンピック開幕! あなたの好きな競技はありますか? 実は知らなかった競技もある? オリンピック競技について図書館で調べてマスコットキャラクターをデザインしてみませんか?

ご応募いただいたマスコットキャラクターを図書館で展示し、人気投票を行います。上位者には素敵なプレゼントをご用意しています。オリンピックをより楽しめる企画に参加しよう!

● 参加方法

- ① 図書館にエントリーシート(申込用紙)を提出する
↓
- ② 図書館でオリンピック競技を調べる
↓
- ③ 競技にちなんだマスコットキャラクターをデザインする
↓
- ④ 図書館で展示・人気投票上位者を発表!

【表彰】

大賞: 電子書籍
図書館賞: 図書カード
+ オシャレ文具
さる一賞: 図書カード
★参加賞もあります★

【参加資格】湘北短期大学の学生(全学科対象)

【応募締切】2016年9月30日(金)

【提出先】湘北短期大学図書館 カウンター(4号館2階)

● キャラクターデザインに役立つ資料、図書館にあります!

まず、オリンピック競技にはどんな種目があるのか、その競技の歴史や日本での記録、種目ごとのルールについて調べてみましょう。現在、図書館アクティブラーニングスペースで、オリンピック競技に関する図書を展示しています。

- 『スポーツの世界地図』(和書 780.2/ト)
- 『図解スポーツ大百科』(和書 780.3/フ)
- 『スポーツ大図鑑』(和書 780.3/ス)
- 『スポーツなんでも事典』シリーズ (和書)
バスケットボール (783.1/コ) バドミントン (783.5/コ) テニス (783.5/コ)
バレーボール (783.2/コ) 卓球 (783.6/コ) スキー・スケート (784/コ)

オリンピック競技が決まったら、いよいよキャラクター制作。インパクトがあって愛されるキャラクターをつくるにはどうしたらよいか、キャラクターデザインの方法について調べてみましょう。

- 『簡単!わかりやすい!キャラクターデザイン』(和書 674.2/プ)
- 『マスコットキャラクター図鑑』(和書 674.2/リ)
- 『成功するキャラクターデザインの法則』(和書 674.2/セ)
- 『イラストレーションキャラクターのつくり方』(和書 674.3/カ)

学生選書ツアー第24弾 実施！！

夏季休暇中に図書館の“店頭選書ツアー”を実施しました。8月9日に有隣堂 厚木店にて行われ、学生4名（さぼ一ち倶楽部3名、一般1名）、教職員2名が参加しました。“店頭選書ツアー”とは、図書館の利用者である学生自らが図書館にあったらいいと思う本、友達にオススメしたい本を、実際に書店の店頭で手にとって選書するという企画。今回の選書ツアーは24回目となり、さまざまなジャンルの本が選ばれました。後期の授業開始日に図書館ミカタのカウンター前に展示する予定です。お楽しみに！

● 参加者に感想を聞いてみました

数多くの本の中から興味の惹かれたものや、自分が知っていて是非他の人にも読んで欲しいものを見つけて選書するのが本当に楽しかったです。有隣堂さんでは多くの種類の本に囲まれながら選書が出来るため、選書しながらこの本は実際に買って読んでみようと思ったりすることが多くありました。まだ参加したことがないという方も、是非友人を誘って参加してみたいと思います。
(Iさん/さぼ部 1年生)



【連載】「ルーエッセイ(31)「なんじゃもんじゃ博士」の思い出

保育学科 亀井美弥子

通っていた学童クラブの隣が市の図書館の分館だったこともあり、インドア派な小学生だった私は毎日のようにそこに入り浸っていました。小学1年生当時好きだったのは「なんじゃもんじゃ博士」という漫画(と当時の私は認識していました)で、借りて帰って母親と大笑いしながらページをめくっていたのを覚えています。ただ、その内容については実はあまり覚えていないのです。とにかく、とぼけた味わいで、セリフ回しのリズムが新鮮でした。おそらく、当時の私にとっては、今でいうと新しい感性のお笑い芸人に出会った時の衝撃に近いものだったと思います。

その後、少し成長してからやっと「なんじゃもんじゃ博士」の作者が有名な『おしゃべりなたまごやき』(福音館書店,1972年)の挿絵を描いている絵本作家の長新太さんであることに思い至りました。ただ当時の私にとって長新太さんは「なんじゃもんじゃ博士」の人という認識で、同じ作家の本として『ノンビリすいぞくかん』(理論社,1979年)もよく読みました。『ノンビリ

すいぞくかん』の攻撃性のほとんど感じられない登場人物(海の生き物ですが)たちが怒ったり考えたり反省したりしている様子や、そのセリフ回しのちょっと舌足らずな？リズムは、今読んでも長新太さんの真骨頂を発揮していると思います。自分に子どもができてからは「きゃべつ、おまえをたべる！」の決め台詞が秀逸な『キャベツくん』(文研出版,1980年)や「つみつみ、ひとつ！」の『つみつみニャー』(あかね書房,1999年)にも出会い、私が子どもの時に夢中になった長新太さんのユーモアのセンスやちょっと不思議な言葉の言い回しが、現在の子どもの世界においても響いていることを知り、うれしくなったものです。

実は私が小1当時に読んだ「なんじゃもんじゃ博士」は絶版となっているようですが、なんじゃもんじゃ博士シリーズは2000年代になって、マンガどうわとして福音館書店から出版されています(『なんじゃもんじゃ博士ドキドキ編』など)。ぜひ手に取ってみてください。